



NPO法人 大谷石研究会

大谷石の魅力を全国のみなさんへお伝えする大谷石研究会の広報誌



180°回転完了(曳き家施工状況)



開口部補強

下部石積固定



ジャッキアップの状態

築五十年の大谷石の蔵、大曳き家工事 — 施主の思いを込めて 180度回転し170m先へ —

NPO法人 大谷石研究会理事 海老原忠夫

4月30日、大谷石の曳き家工事がある
と聞き、現場を訪ねました。作業担当者
に作業内容を伺うと「段差250cmを下
げ、蔵を180度回転し、170m先の
換地に移設する」と聞きびっくりしました。

設計者に施主の思いと、設計者として
の感想を伺いました。施主は「50年前の
新築の時、石積みで携わった想いや、子
供へ孫へ残して行きたいという、家族へ
の想いからこの蔵を大切に残したい」と
いうことでした。また、設計者は「時代
を経た大谷石の風合や石工の匠の技が息
づく意匠は簡単に再現できるものではなく、
宇都宮の宝、風土の誇りとしてこの蔵を
是非残したい」といつ施主に共感しました。

建築基準法に適合した移設可能について、
検討に検討を重ねてきた結果、保存が実
現することになりました。工事監理に係
ってみると難易度の高い工事にもかかわらず
らず精度の高い曳き家工事となり、本当
に感動しました。ぜひ多くの人々に大谷
石の蔵も曳き家が可能であることを、知
っていただきたいですね。情緒ある大谷

石蔵の保存・再生により、宇都宮が石の
文化に息づく街となることを私たちは願
っています。」と、熱く語られました。私
も同感です。
施主、設計者、施工者の大谷石の蔵に
対する愛着と思いがひしひしと伝わっ
てきました。新しい場所でもこれからも未
長く家族に愛される蔵に思いをはせました。

参考	施主 楠 好雄(くすのき よしお)
	住所 宇都宮市鶴田町988-3
	曳き家について
	①曳く距離 約170m
	②段差 25m
	③回転 180度
建設年	1962年
工期	平成22年3月23日～
	同5月31日
建築確認済	平成22年2月 宇都宮市
区域	区画整理地内
設計者	渡辺有規建築企画事務所
	宇都宮市今泉
曳き家施工者	五月女建設
	鹿沼市府中町

大谷石昔ばなし...7

大谷石石材動力切断機導入

(NPO法人 大谷石研究会理事広報担当 柏村 祐司)

大谷石採掘の機械化は、昭和29年(1954)フランス製 PPK125という動力切断機の購入を皮切りとする。この機械の購入は、「大谷石石材協同組合機械化研究会」が中心となつて行ったものであるが、その裏には購入責任者であった渡辺宏之の類稀な人脈があった。

渡辺らは大理石の切断で威力を発揮していた切断機のフランス製PPKの存在を知ったが、当時は輸入規制が厳しく外国製品を簡単に購入できなかった。ところで渡辺が学んだ慶応大学の同窓で山岳部の先輩に、マナスル登山隊長を努めた三田幸夫がいた。戦後三田幸夫は、横浜市の貿易会社「竹村商会」の顧問をしていた。そこで渡辺宏之は、先輩の三田のつてを頼りに例のPPKをフランスから輸入してもらったという次第である。

販売・商品開発
有限会社 KANEHON

〒321-0345 宇都宮市大谷町 350 番地
TEL 028-652-0172 FAX 028-652-0192

建築設計・耐震診断・環境配慮
顧客のニーズに応え、安心と信頼を提供します

株式会社 **フケタ設計**

本社 / 栃木県宇都宮市大曾1-5-8 ☎028-622-8928(代)
東京・埼玉・栃木・茨城・群馬・宮城